



てんてん祭り

てんてん祭り2007を開催して

院長 榎本 和

昨年に続き、今年は「繋ぐ」をテーマに文化祭・てんてん祭り2007を10月6日に開催しました。

てんてん祭りがかつて体育の日であった10月10日にちなで名付けられたことは、昨年の「WA!」で述べましたが、私どもは共和病院がどんな病院か、どんなことをしているのかを地域の皆様にお伝えし、「心の病」について理解を深めて頂くことを大きな目的としています。今年のテーマ「繋ぐ」は、病院と地域、患者様と家族、患者様と地域を繋ぐ、という意味でもあります。

昨年に続いて二回目であり実行委員会が中心になって地域の公民館、コンビニなどに協力を得て、ポスターなどを貼らせて頂いたことが功を奏してか、地域の皆様263名、関係機関の職員の方20名、職員の家族など関係者73名と昨年の倍近くの参加を得ました。

様々な催しの中で共和病院の歴史や健康推進コー

ナー、模擬店など賑わっていました。体験コーナーでは多くの方がメタボリックシンドロームなどのチェックをされていました。模擬店は五平餅や焼き芋、綿菓子などそれぞれ楽しそうに召し上がっていました。また午後からは地域の道府民謡同好会のみなさん、でらおおぶの方達の賛助出演があり、デイケアのバンド・Friendsの演奏や最後に部門別対抗歌合戦など盛りだくさんのプログラムで構成されていました。

この催しを通して、出演した人たちのエネルギーに感動し、心を病んでいる人も病んでいない人も、共に生きるという実感を持ちました。心の病をお持ちの方が、他の障害をお持ちの方、高齢者、子ども達と同様に分け隔て無く、一般の人たちと共に地域でより良い暮らしをしていくことができるようこれらのパワーで社会復帰が一步步進めて行けたらと願います。

名誉院長 加藤邦之助を偲んで

共和病院名誉院長・加藤邦之助の95年と6ヶ月、約一世紀にわたる生涯は震災、戦争、復興、そして経済成長と日本国の発展と共に多彩な時代を生きてきました。息子である私は名古屋市瑞穂区の加藤医院の時代に黒い自転車で往診に連れて行ってもらった思い出が残っています。午前の診療を終えた父は午後には往診カバンを自転車に取り付け、私を荷台に座らせて近所に往診に回るといふ毎日でした。時には夜中でも往診に出かける…

当時の診療所の先生方はそれが当たり前の医療であった時代です。1959年頃の初代共和病院の建設時には現在の場所に父と一緒によく来たものです。病院から共和駅までほとんど畑と田んぼであり、もちろん新幹線はありませんし、23号線もありませんでした。共和駅で貨物を牽引して走る蒸気機関車C11の煙と汽笛が印象的でした。父は病院が完成して暫らくは診療所を続けながら病院経営に携わ

り、私が高校3年生の時には共和病院の院長・理事長として共和病院に住居を構えました。父は毎晩の様に病院の当直を自宅で待機し、いつも患者さんの方に心が向いている姿は今思えば父らしく感心致します。父は寡黙で息子の私には何の「言葉」も教えた事はありませんでした。思えば「人に尽くす」という「医の心」を父は人生で教えてくれました。

＊

父が入院するまでは私と一緒に週2回ほど病院へ出勤し、94歳とは思えないほど認知もはっきりし、歩きも達者でした。入院のきっかけは嘔気食欲不振が落ち、夏の暑さも加わり、脱水に陥りました。7月17日に共和病院に

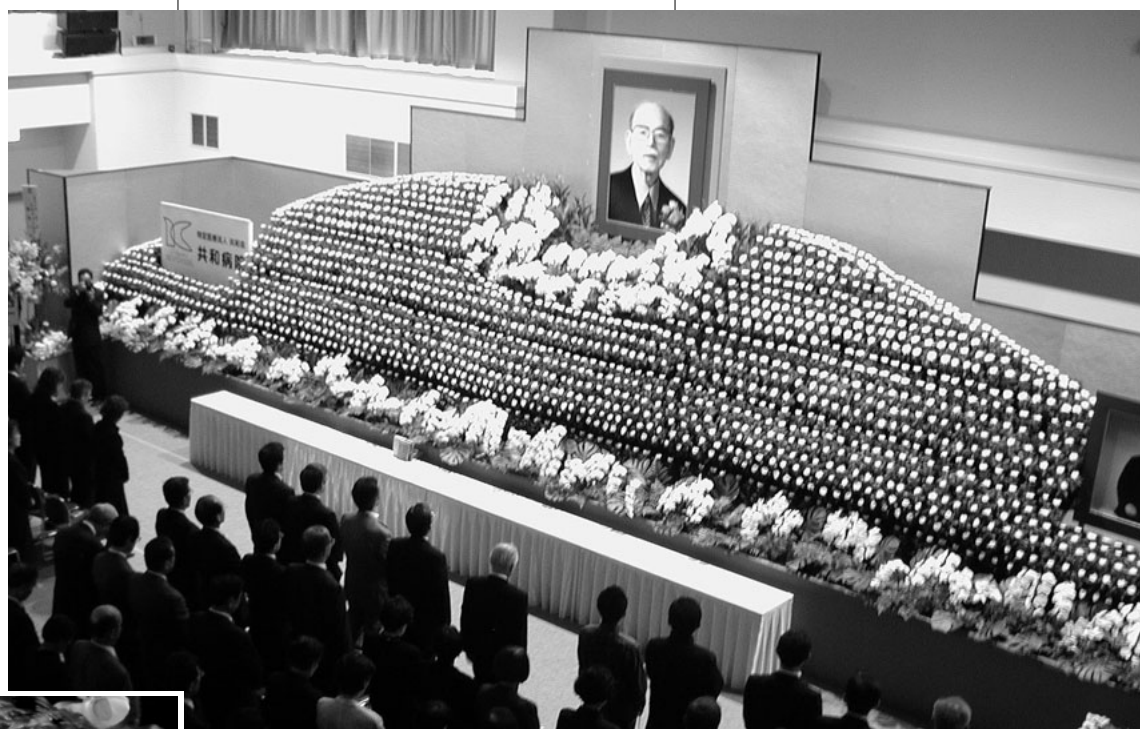
入院し、内視鏡で上部消化管検査をしましたところ食道に真菌(カビ)が生えており、すぐに治療を開始しました。栄養の補給に静脈栄養を行いました。腸管の動きが悪く、誤嚥を繰り返し、治療の甲斐なく肺炎を併発して、9月19日午前9時37分に静かに息を引き取りました。

＊

9月22日(土)には親族・家族のみの密葬を済ませ、9月30日(日)に生前の父の希望により「お別れの会」を共和病院で執り行いました。皆様のこれまでの御懇意、御親切に対し、父に代わりますて私から心より御礼申し上げます。

2007年 10月

特定医療法人共和会 理事長 加藤 仁



～慰安旅行～



～パリで朝食～



～アラレちゃんに仮装～

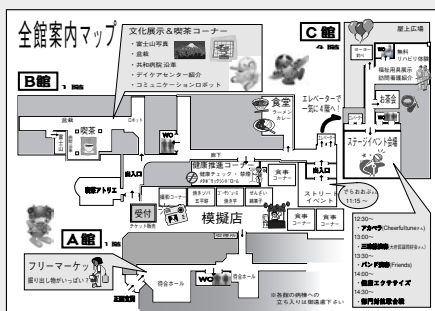


てんてん祭り 実行委員会から



昨年に引き続き今年も10月6日(土)にてんてん祭りを開催することができました。当日は天候にも恵まれ大変多くの方にご来場頂きました。中駐車場には焼きそばや綿菓子、ぜんざいなどの模擬店が立ち並び、診察待合室や会議室、リハビリセンター、デイケアセンターでは各種の展示・体験企画が催され、更にC館の玄関や4階多目的ホールでは、踊り、三味線、アカペラ、バンド演奏、エクササイズ、部門対抗歌合戦など様々な出し物が企画されるなど盛りだくさんの内容でした。ご来場いただいた皆様には楽しんで頂くことができましたでしょうか。

さて、今年のてんてん祭りは「地域に密着した医療機関作り」という共和病院の大きな目標に向けた取り組みの



一環として行われました。テーマは「繋ぐ(つなぐ)」。これには第一に地域と病院とを繋ぐという意味が込められています。精神科の病院といえばこれまではどちらかと言えばやや閉鎖的といったような印象で捉えられてきた面があるように思います。今回、文化祭という形で病院から地域に向けて発信させていただき、精神科医療や精神障害の正しい理解について、地域の方々に興味を持ってもらうきっかけとなれば幸いです。

最後になりましたが、当日ご来場頂いた皆様、ボランティアとしてご協力頂いた皆様、またスタッフとしてご協力頂いた皆様、設備や道具をお貸し頂いた皆様、その他関わって頂いた全ての皆様、大変ありがとうございました。心より感謝の意を申し上げ、てんてん祭り2007のご報告とさせていただきます。

てんてん祭り実行委員長 小島 誠生

編集後記



“はじめまして、こんにちは”と“お久しぶり、M・Aです”

私は、一年半前まで広報委員として“WA!”の製作に携わっていましたが、めでたく第3子を授かり、H18・4～産休と育児休暇を取らせて頂きました。無事、その年の6月にこれまたBigな3938gの女の子を出産しました。その子もすくすくと大きく育ちこのたび職場復帰する事にしました。嬉しい事に

俳句の会と 名誉院長

第1回 俳句の会は、今から43年前の昭和39年11月19日に自治会の主催で開催されました。私が入職した頃は、患者様中心の自治会があり、俳句の会もその活動の一環で始まりました(余談ですが、何代目かの自治会長さん、現在も毎日100句程俳句を作りノートに書き留めているとのこと)。因みに1回目の金賞作品が“冬の夜も日記をつづるや空の星”という作品でした。

それから平成16年11月29日に500回記念を迎えましたが、今年9月の527回をもって終了いたしました。最後の金賞作品は“夏の日のだらりと垂れる犬の舌”でした。名誉院長が元気一杯だった頃は、入賞作品一句一句を自ら短冊に書き、本人に手渡していました。当時の参加者は直筆の短冊を目指したものでした。また俳句の会そのものは終始一貫して優しい名誉院長と直に触れ合える楽しい一時でした。

残念ながら俳句の会は終了しましたが、名誉院長が教えた俳句の心は、参加した人の心から、いつまでも消えることはないと思います。つい最近も投句された方がいましたが、俳句の会が終了したことを伝えると、もうないのかと呟いていたそうです…しかし、俳句の会と共に名誉院長は永久に不滅です。

リハビリテーション課 柳田 博志



また広報委員として参加させて頂ける事となり、ウキウキした気分で編集後記を書いています。共和病院のホットなニュースをわかりやすく、そして楽しくお伝えできたらと思っています。それと、このコーナーで私の育児奮闘記もご紹介できたらと考えております。未熟者ではございますがなにとぞ末永くお付き合い下さいませ。

(M・A)

名誉院長と 共和病院家族会(さつき会) の経緯とこれから

当院の家族会『さつき会』はサツキの花が満開の季節1967年5月に発

会して今年で40年を迎えました。全国精神障害者家族連合会(2007.1月解散)の発足が1965年であり、奇しくも1965年は加藤邦之助先生が共和病院の院長に就任した年でした。

1966年、院長就任後まもなく、ソーシャルワーカーと病棟看護師が病棟ごとに家族懇談会を開きたいと申し出たことをきっかけに、邦之助先生は「こころの病の治療は病院のスタッフだけでは十分ではなく、ご家族の理解と協力が必要です。是非、懇談会を開きましょう。」と快諾されて、先生自ら面会に来られる家族を誘って発会となりました。

さつき会は1970年代に社会復帰施設や共同住居(岡山、川崎、静岡等)を次々に視察して、1981年に大府市内に中間施設さつき寮(共同住居)を開設し、家主の都合で退去になる1988年までの8年間で10名の方を受け入れました。その当時の病院家族会役員の方は「家族会が社会復帰を手伝うことができれば、自分の家族に限らずに手伝いたい」という希望もあり、邦之助先生の健康・健脚で、三重、豊橋の施設見学や名古屋・神戸の全家連大会へも役員と一緒に出席されました。また、役員による家族相談日を月1回開催し、10年間にわたって役員が交代で家族相談員となり、ご家族の相談に応じたり、その他に役員や有志による県連活動やボランティア活動などの取り組みが続けられていました。

現在のさつき会は、毎月開催(第4水曜日)の小グループのなごやか会と、3ヶ月ごとに開催する例会を中心に行っています。内容としては、病気についての正しい理解や患者様との接し方、また利用できる福祉制度などご家族の方からの希望を取り入れています。また毎年夏の恒例行事として、患者様とご家族が楽しんで頂く

どう狩りや、家族会全国大会への参加や視察や見学会等…毎

回開催する例会は役員が事前の準備を十分にを行い、参加した家族の方々がほっとして帰っていただけるように工夫をされています。

家族会に求められることは、参加した方が不安をかかえていても、終了後は少しでも和んでもらいたい、肩を軽くして帰途についてもらいたいとの家族同士の支えあいであると思います。そして参加をした家族の方も病院職員も皆が

当事者であるということに気づかれます。病院職員は家族の声に励まされて元気をもらう機会でもあり、邦之助先生は例会を終えた後に役員や病院職員に必ず「今日はどうだったかね。」と言声をかけられていました。

このように40年間の家族会活動は、精神保健福祉の施策や医療の変革の中で状況が様々に変化しても、さつき会では家族同士を育み、参加する家族の出会いを大切に続けてきました。これは邦之助先生のアットホーム・誠実という温かさによって支えられて一緒に歩みつづけてきた年月でもあります。

今年のてんてん祭りにさつき会から共和病院創立50周年の記念としてテント1張が贈られました。新品で真っ白なテントの美しさに、邦之助先生を想いながら家族の方々は希望を口にしていました。

さつき会創立と共に過ごした邦之助先生の遺志を引き継いで、病院家族会を地道に続ける事の大切さと精神科病院は地域の一員であるということ、時には厳しくまた優しく先生を忘れずに、今後もさつき会は新たな10年を目指して行きたいと思ひます。

さつき会事務局 水谷 いずみ



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは!

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは!

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1.あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。

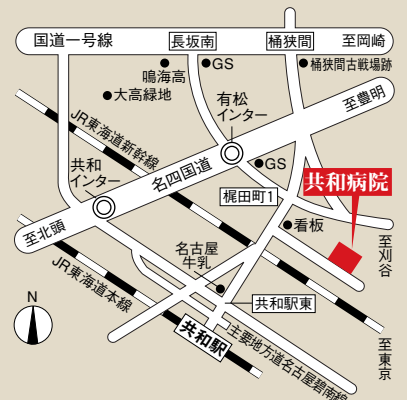
2.あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。

3.あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。

4.あなたの医療上の個人情報保護されます。

5.あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。

病院長 榎本 和



特定医療法人 共和会 **共和病院**

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

俳句コーナー

名誉院長
加藤 邦之助

逝く人に
留まる人に
来たる雁

漱石

「思い出す事など」の中に書いてある様に修善寺から東京の長与胃腸病院に転入したのが明治四十三年十月十日のこと。その春からお工合の悪かった院長先生のご病気がかですかと尋ねたら、妻が翌日の朝枕元にきて、実はあなたが病気で危篤の頃先生も悪化して九月五日に亡くなられましたが、今までことさらに知らさなかつたのは、あなたも大変悪かつたからですと聞いてしばらくは茫然としたまま黙っていたと云っています。自分に修善寺で胃潰瘍をゆつくり治す様に色々心配してくださった院長が亡くなられた頃、本当はあの世の入り口まで行っていたのにやつこの世に生き残ったのだという。悲しい様なありがたい思いから出来た句であります。生死を乗り越えた以後の作品はすばらしいものばかりで、俳句も若い時と異って落ち着いた心に響く佳句が来ています。